



言葉で伝え合おう

令和5年10月1日
静岡市立南中学校
学校便り10月号

全国学力・学習状況調査の結果から見る南中

全国学力・学習状況調査は、学校における生徒の学習状況、生徒への指導や支援の改善・充実等に役立てる資料とするため、平成19年度から実施されています。今年度は、全国10,287校で実施され、1,075,582人の中学生が参加しました。

1. 教科調査の結果

平均正答率	国語	数学	英語 (聞く・読む・書くこと)	英語 (話すこと)
本校	72%	55%	45%	8%
静岡県	71%	52%	47%	—
全国	69.8%	51.0%	45.6%	12.4%

2. 質問紙（アンケート）調査の結果

<生徒の幸福感、排他心、社会参画の意欲、自己有用感など>

「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」などの設問に対しては、約90%の生徒が肯定的な回答をしており、学校生活に対する満足度（幸福感）が高いことがうかがえます。

また、「将来の夢や目標をもっていますか」は67.5%（全国66.3%）、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」は70.3%（全国63.9%）と肯定的な回答をしている生徒の割合が全国平均を上回っています。総合的な学習の時間における「われら、南中学区応援団」（1年次）や「Social Change First」（2年次）などの探究学習を通して、生徒たちが挑戦心や社会参画の意欲を高めているとしたら、こんなに嬉しいことはありません。

一方で、「自分には良いところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は77.5%と、全国平均の80.0%と比べて若干ですが低くなっており、解決したい課題です。

なお、今回のアンケートにおいては、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学習」に関する設問と「生徒の自己有用感」等に関する設問の間には、相互に関係し合う様子が見られます。現在、本校では、静岡大学教育学部で教鞭をとる山元薫先生を招いて、「UDの視点を取り入れた授業づくり」を進めています。生徒の学びをより主体的に、より対話的に、そして、より深くできるよう、ひいては自己肯定感を高められるよう、我々教員も探究していきます。

<生活や学習など>

生活面では、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（起きていますか）」などの質問においては、肯定的な回答をしている生徒の割合が高く、基本的な生活習慣が身につけていることが分かります。

学習面では、

- ・ 国語の勉強が好きですか …… 66.3%（全国61.4% 静岡県62.8%）
- ・ 数学の勉強が好きですか …… 57.9%（全国57.9% 静岡県56.9%）
- ・ 英語の勉強が好きですか …… 40.5%（全国40.5% 静岡県53.6%）

と、国語や数学に関しては、全国と同様か上回っていますが、英語については、教科調査の結果からも苦手意識が垣間見えます。なお、これらの教科の勉強は大切かという質問に対しては、それぞれ80%程度の生徒が肯定的な回答をしています。生徒は勉強の重要性を理解しています。そこから、「勉強が楽しい」「もっと勉強したい」という気持ちにしていけるために、先述した通り、今後も授業改善に取り組んでいきます。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」という設問に対しては、肯定群は48.3%と、自律性の面では残念な結果となっていました。この点については、奮起を促すとともに、自律を助けるサポートをしていきたいと考えています。

<他者との関わり>

- ・ 人が困っているときは進んで助けていますか …… 86.0%
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか …… 94.9%

この2つの設問に対する肯定的な回答をした生徒の割合の高さからは、本校の生徒たちが思いやりや寛容の心をもっていることがうかがえます。一方、回答割合の差からは、まだ「思いはあるが、行動には至っていない」生徒もいることが推察できます。